

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらせんジュニア 熱田教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 20日		2026年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36人	(回答者数) 31人
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	協力企業様から頂いてる作業やインターンシップを通して学生のうちから「働くこと」の意識の向上を図ったり、「できた」を通して個々の自信や自己肯定感を高めることができています。	年齢や特性、障がいの種類も様々なので、1人ひとりの能力にあった作業の提案ができるように作業の切り出しの工夫をおこなっている。 教室のスペースをうまく使い、自分たちで準備や片付けを行う取り組みができています。	様々な作業に挑戦して自信につなげられるように、営業活動を通して引き続き協力企業様を増やしていく。
2	サービス提供記録、定期的なおたよりの発信、インスタグラムの投稿を通して日頃から教室の活動の様子をお伝えすることができています。	おたよりは月一回配付、インスタグラムは週に一回の投稿を継続。サービス提供記録では、文面だけでなく写真での個人の活動の様子も定期的に発信している。 また、6か月に一度必ず来所していただき、しっかり時間をとって日頃のご家庭や学校等の様子を共有させていただき、支援計画に反映させている。	引き続き、教室全体や個人の活動の様子を発信し、通所満足度につなげていく。 ご質問、ご相談がしやすい環境を作るため、定期的に窓口の案内を行っていく。
3	研修や会議等を通して支援の質の向上や関係する情報収集に努めている。	就労準備型の事業所として必要な知識(福祉制度、障がい理解、障がい者雇用)等を重点的に学ぶ機会を設けている。	他事業部や他事業所とも連携を図りながら、新しい情報を取り入れ、利用者様/保護者様に常に正しい情報を発信できるよう知識をアップデートしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への説明等の項目に置いて「わからない」「どちらとも言えない」が多いので、より丁寧な説明が必要。	項目については説明を行っているが、日々の支援ややり取りが項目の内容と結びついていない可能性がある。 保護者会やセミナーも定期的に開催しているが、全員参加が難しいため、参加できなかった方からすれば評価としては下がる可能性がある。	日々の支援内容と評価項目を結びつけた情報発信を強化するため、契約時やモニタリング時により丁寧な説明を心がけていく。 保護者会やセミナーに参加できなかった方に対して、資料の共有ができていないこともあったので、参加できなかった人たちのフォローを徹底していく。
2	非常時の対応の項目において、より丁寧な説明が必要。	マニュアルや計画書は整っているが、簡単な口頭での説明にとどまってしまう。	保護者向けに要点を整理した資料の作成および説明機会の標準化を図ることで、より確実な理解につなげていく。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域のほかの子どもと活動する機会がない。	保護者アンケートの項目に入っているが、事業所としてもその機会の必要性を感じにくく、保護者からの需要もないため積極的な行動に移すことができていない。	地域のイベントや交流会に参加するようにしていく。 事業所としての必要性を見出し、当事業所にあった交流の仕方を考えていく。